

トピックス第1回目としては、ドリカムキャンプに2年連続参加され、「ドリカムキャンプ2014 冬の陣～夢～」にも参加申込されています、日本大学三島高等学校陸上競技部の秋の活躍をお知らせいたします。

チームスローガンは、『常笑<sup>じょうしょう</sup>』。

### <チーム大躍進！その秘密は・・・>

日本大学三島高等学校陸上競技部は、この秋、行われた新人戦で、陸上競技部の歴史の中で「初成績」を3つ挙げました。

それが、

- 1.静岡県大会で、男子4×100mリレーで優勝したこと。
- 2.静岡県大会で、男子4×100mリレーと男子4×400mリレーの両方が3位以内となったこと。
- 3.東海大会で、男子4×100mリレーと4×400mリレーの両方が東海大会入賞(6位以内)となったこと。

また、それに加えて、現監督の田中先生が就任後の「初成績」も3つ挙げられました。

それが、

- 1.東海大会への出場者数が県内1位となったこと。
- 2.東海大会で、表彰台種目数(4種目)と入賞種目数(5種目)が最多となったこと。(内訳：男子100m3位・200m3位・4×100mR3位・4×400mR5位・女子3000m優勝)
- 3.東海大会で、個人表彰台(3位以内)に3人が上がったこと

以上です。

しかし、この大活躍の裏には、チーム一丸となって取り組んだ変革があったようです。

それについて、田中浩章監督と内村優介キャプテンからメッセージをいただきましたので、紹介します。

+ + + + + + +

こんにちは。日大三島高等学校陸上競技部キャプテンの内村優介です。この度は、このような機会を与えていただき、ありがとうございました。

この秋のシーズンで感じたこと、学んだこと、成長したことを書かせてもらいます。少しでもドリカム仲間の皆さんのお役に立てたらうれしいです。

昨年度や今春までの自分は、「ここぞ！」という場面で弱く、ライバルに競り負けてしまうことがありました。これは全て、自分自身のメンタルの弱さが響いたのだと思います。

今夏、キャプテンとなった自分は、よりいっそう自分に厳しくするようにしました。私生活の中でも、陸上の事を考え、自分の成功場面を毎日描くようになりました。

また、臼井先生より、「チームは、リーダーの言う通りになるのではない。リーダーのやる通りになる！」という言葉をお授けいただき、その言葉を胸に、自分がチーム全体のお手本となる言動をするように心掛けました。



練習中も、自分のパートの切磋琢磨出来る仲間と共に、今まで以上に力を入れていきました。

キャプテンになってから、チームの中心である自分が、「日大三島陸上部の雰囲気、競技力を変えるんだ！」という思いが更になりました。

そして、その思いを持ち、今までとは異なる練習前の円陣を作りました。その効果で、今まで以上にチーム全体の雰囲気を上げて練習に入れるようになりました。そういう日常での取り組みを変えたことで、日頃より田中先生から言われている「競技力は、チーム全体の雰囲気の変化で向上出来るもの」ということを実感しました。

また、競技力の向上に欠かせない、「他喜力」をチーム全体が意識して練習をすることになったのも、チーム力が上がったことに大きく関係していると思います。



このように、キャプテンとして、チームのお手本となること、そして、チーム力の向上を個人の能力向上より優先してやってきたことが、視野の広さに繋がり、結果、個人の競技力向上とメンタルを強くさせてくれたと思っています。

秋の新人戦では、県、東海で多数の入賞種目が出ました。これまでの日大三島から考えたら、これは新しい歴史を作るシーズンになりました。ですが、これは、あくまでも通過点に過ぎません。

自分自身も、静岡県で二冠、東海で3位入賞種目を3つ出しましたが、これもまだまだ通過点の一つだと思っています。

これからも、「24時間アスリートでいる！」ということをお忘れず、更なる高みを指して顔晴って行きます。

日本大学三島高等学校陸上競技部 キャプテン 内村優介



\*陸上競技では表彰式の際、「優勝者」が表彰式で賞状を受け取った後、入賞したライバル達と全員で行う、「表彰台での決めポーズ」を決定することが最近の慣例となっています。東海大会の男子200m、内村キャプテンは3位の選手。なのに、ライバル達全員に自分達チームのNO.1ポーズ（指をL字型に天に向かって突き上げる「常笑ポーズ」）をしてもらっています。どうやら、交渉力も長けているキャプテンのようです（笑）

+ + + + + + +

こんにちは。日本大学三島高等学校 陸上競技部監督の田中浩章です。この度は、私達をトピックスに取り上げていただき、ありがとうございます。私とキャプテン内村の話が、ドリカムメイトの皆さんの力になれば光栄です。

さて、今回の新人戦についてのお話をさせていただきます。

成績だけ見たら順風満帆の様に見えますが、実は昨年秋の男子短距離メンバーには最上級生が1名もおらず、1年生のみで構成せざる得ない状況でした。

そのため、昨年の新人戦は、県大会入賞者はたったの1名。リレー種目においても男女4種目ある中、1種目がかろうじて県大会に出場できるという散々な結果でした。

そんな状況からスタートしたこのチームが、この1年間で、なぜこんなに大きく変わったのか？

中でも大きく変わったのは、男子1600mリレー。このチームは、1年生の春、秋、2年生の春と3回連続で東部大会予選落ち。県大会にすら出場出来ませんでした。それが、秋になると東部大会で優勝。メンバーにとって初の県大会で準優勝。そして、もちろん初の東海大会で5位入賞という、伸び率としては、陸上部一番でした。

1600mリレーメンバーに限らず、この秋の各選手の躍進の理由は、部員たちがチーム目標や、スローガンに対し、以前よりも強い気持ちと、こだわりを持って取り組むようになったことだと思っています。

各々が自分のやるべき役割を見つけ、それぞれの『日本一』の形を目指すことで、チームの「氣」が変わっていきました。

ただ、キャプテンの内村が話していたように、今秋の結果はあくまで通過点であり、監督の私から見ると、まだまだ子供たちの可能性を發揮させてあげられなかったのが、悔しい気持ちの方が多かったシーズンでした。

来夏、山梨の地で、常笑軍団の『日本一』達成に向けて顔晴っていきます。

ドリカムメイトの皆さんの思いも力にして。

日本大学三島高等学校 陸上競技部 監督 田中浩章



\*写真は、この秋の新人戦東海大会出場メンバーです。日本中に『常笑旋風』を巻き起こす活躍を期待しています。

2013年12月1日